

# 林木遺伝資源情報

第5号 - 3 2004.1  
独立行政法人 林木育種センター



保存園シリーズ No.5

## 林木育種センター九州育種場の保存園の現況

林木育種センター 九州育種場 力 益 實

### 1 はじめに

林木育種センター九州育種場は、熊本市の北部と隣接する西合志町の、通称、黒石原にあります。東側と南側は広大な面積を有する九州沖縄農業研究センターの農地、北側は民間の特産種苗センターの畑地と隣接し、西側には県道が走っています。

広々とした農地で牛や山羊がゆったりと草をはむ光景と九州育種場の保存園等の林が織りなす風景(写真-1)が人々に好まれているようで、散策やジョギングのコースに利用する人が絶えません。施業地、建物敷等合わせた用地面積は約21haあり、東西南北に作業用通路が敷設されています(図-1)。



写真-1 草をはむ牛と九州育種場の育種素材保存園(奥に見える樹木)

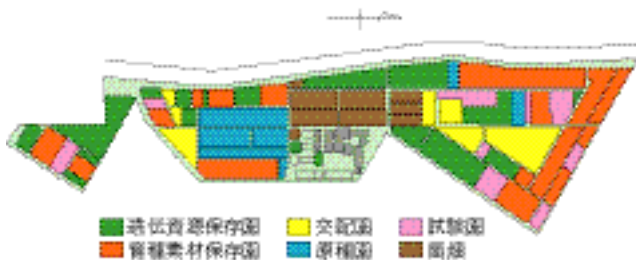


図-1 施業地配置図

保存園の現況は次のとおりですが、この中で特徴的なものについて紹介します。

表-1 九州育種場における保存園の現況(H15年3月現在)

保存園の種類	面積(ha)	系統数
遺伝資源保存園	3.76	953
育種素材保存園	5.71	1,960

### [屋久杉遺伝資源保存園]

平成5年、屋久島が世界自然遺産に登録されまし

た。その一員を担っている屋久杉は、樹齢千年を超えているものとされ、千年に満たないものは小杉として区別されています。

その屋久杉の著名木を、九州森林管理局、屋久島森林管理署、屋久島森林環境保全センター、屋久町及び上屋久町の協力を得て、平成7年度~9年度にかけて16個体から小枝を収集し、つぎ木で増殖したものを遺伝資源保存園に保存しています(表-2、写真-2)。この保存園から採穂し、挿し木で増殖養育してきたものを、平成16年度に屋久島森林管理署、屋久町及び上屋久町に展示林用として提供することにしています。さらに、平成13年度にも10個体の著名木から小枝を収集し増殖しています(表-2)。

表-2 屋久杉著名木の収集状況

名称	収集年度	名称	収集年度
縄文杉(写真-3)	H7	モッコウム太郎	H8
太古杉	"	万代杉	"
夫婦杉(夫)	"	蛇紋杉	H9
夫婦杉(妻)	"	双子杉	H13
大王杉	"	母子杉	"
翁杉	"	八本杉	"
川上杉	"	三本足杉	"
仏陀杉	"	三本槍杉	"
愛子杉	H8	展望台杉	"
七本杉	"	くぐり杉	"
奉行杉	"	三本杉	"
弥生杉	"	びびんこ杉	"
紀元杉	"	二代大杉	"



写真-2 屋久杉遺伝資源保存園

また、ジーンバンク事業が始まる以前の昭和57年から収集した屋久杉46個体のクローンの中に、枝が密生し、こんもりとした美しい樹形で、しかも成長

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税別で3,190円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。

が穏やかなため美しい樹形を長く保つことができ、スギハダニにも強いため、庭木などに適している品種として登録した「屋久翁」があります(写真-4)。



写真-3 縄文杉



写真-4 屋久翁

この46個体は特性調査を行い、林木育種センターのホームページに評価結果を公表しています。

[ ヤクタネゴヨウ遺伝資源保存園 ]

ヤクタネゴヨウは屋久島、種子島に生育している五葉松で、現在では屋久島に1,000~1,500個体、種子島に100個体が生育しているのみとなり、環境省のレッドデータブックでは「絶滅危惧 B類」に指定されています。



写真-5 ヤクタネゴヨウ遺伝資源保存園

九州育種場ではジーンバンク事業の一環として、屋久島森林管理署及び屋久島森林環境保全センターの協力の下、平成元年から穂木の収集・増殖・保存を進めています。つぎ木で増殖してきたクローンの遺伝資源保存園(写真-5)で、最近数クローンから花粉や球果の採取が可能になってきました。

平成12、14年度の植樹祭では、当场で養苗した苗木が上屋久町の白谷雲水峡の近くに植えられ、「ヤクタネゴヨウ展示林」として期待が寄せられています。

[ マツノザイセンチュウ抵抗性個体育種素材保存園 ]

マツノザイセンチュウに対し、抵抗性を有する個体としてアカマツ92本、クロマツ18本が選定されました。昭和61年度から各県に採穂園が造成され、現在、抵抗性種子が生産されていますが、この保存園が大きく貢献してきました。この中には品種登録した「荒雄」もあります。現在もクロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性個体の追加選抜を進めています。

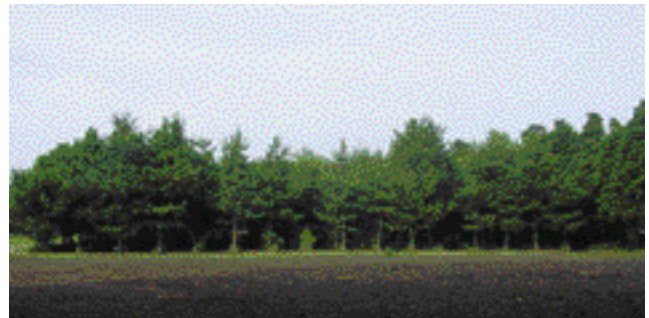


写真-6 マツノザイセンチュウ抵抗性個体育種素材保存園

[ スギ・ヒノキ第二世代精英樹(候補木)の育種素材保存園 ]

精英樹同士を人工交配してできた子ども群を遺伝試験林や育種集団林として国有林に設定していますが、この中から材質を含め、複数の形質に優れた個体を選抜し、採穂したものをつぎ木やさし木でクローン苗を養成して保存しているものです。優良個体の選抜には、需要者のニーズを選抜に取り入れるため、林業者や木材業者の方々に参加していただきました。

この第二世代精英樹(候補木)は、さらに、第三、第四世代として引き継がれていくこととなります。

平成15年3月末で、スギを1箇所、ヒノキを2箇所に保存しています。



写真-7 ヒノキ第二世代精英樹(候補木)の育種素材保存園

[ その他の保存園 ]

他にも天然記念物、天然生のスギ、ヒノキ、外国産樹種、精英樹のスギ、ヒノキ、クヌギ、広葉樹のケヤキ、タブノキ、センダン等を保存しています。